



クラブ経営方針

2030ビジョン

2022年1月14日

株式会社カマタマーレ讃岐



- ① 「2020～22経営方針」の振り返り
- ② 2022 経営方針
- ③ 2030 ビジョン

① 「2020～22経営方針」の振り返り

(2020年1月新体制発表会資料)



5. 中期経営方針 (2022シーズンの到達点)

J2で上位争いできるクラブ

【事業】

- ・平均入場者数
5000人へ
- ・事業規模9億円へ
- ・スタッフが誇りを持って
働き続けられるクラブへ



【チーム・アカデミー】

- ・練習環境の整備
(J1ライセンスの取得)
- ・アカデミーからトップチームの
主軸となる人材の輩出
- ・スクール生、Jr.ユース選
手、ユース選手が憧れ、
誇りを持てるクラブへ

① 「2020～22経営方針」の振り返り

(2020年1月新体制発表会資料)



5. 中期経営方針 (2022シーズンの到達点)

2021シーズン進捗

J2で上位争いできるクラブ J3最下位

【事業】

- ・平均入場者数
5000人へ
1475人
- ・事業規模9億円へ
4億円
- ・スタッフが誇りを持って
働き続けられるクラブへ
平均勤続2年8ヶ月



【チーム・アカデミー】

- ・練習環境の整備
(J1ライセンスの取得)
クラブハウス建設計画
- ・アカデミーからトップチームの
主軸となる人材の輩出
U18から2種登録選手3名
- ・スクール生、Jr.ユース選
手、ユース選手が憧れ、
誇りを持てるクラブへ
スクール生285人 (2019年比82%)

【総括】 (1年前の比較であるが) 目標を大きく下回る進捗

① 「2020～22経営方針」の振り返り

(2020年1月新体制発表会資料)



1. 2019振り返り → 2020の対策

- 1) クラブ理念づくり 目標に意味を持たせる
- 2) 最優先すべき価値の明確化
 - ・【事業】 お客様最優先
 - ・【チーム・アカデミー】 カマタマーレ讃岐のサッカースタイル
- 3) 人材育成+PDCA : 「考える」

① 「2020～22経営方針」の振り返り

(2020年1月新体制発表会資料)



1. 2019振り返り → 2020の対策

1) クラブ理念づくり 目標に意味を持たせる

現状評価

めざす理念は理解されているが、継続的な成果をだせていない

2) 最優先すべき価値の明確化

・【事業】 お客様最優先

お客様ニーズを捉えきれていない

・【チーム・アカデミー】 カマタマーレ讃岐のサッカースタイル

アカデミー：U18チームの成果

トップチーム：サッカースタイルが定まらない

3) 人材育成+PDCA：「考える」

人材育成：態勢が整っていない

PDCA:事実に基づく検討、実践(ファクトベース)ができていない



(1) クラブをよくするために一から積み上げる

- 基本の修得
- 意識改革
- 仕組みづくり

狙い：人を育て、クラブを持続的に成長させる

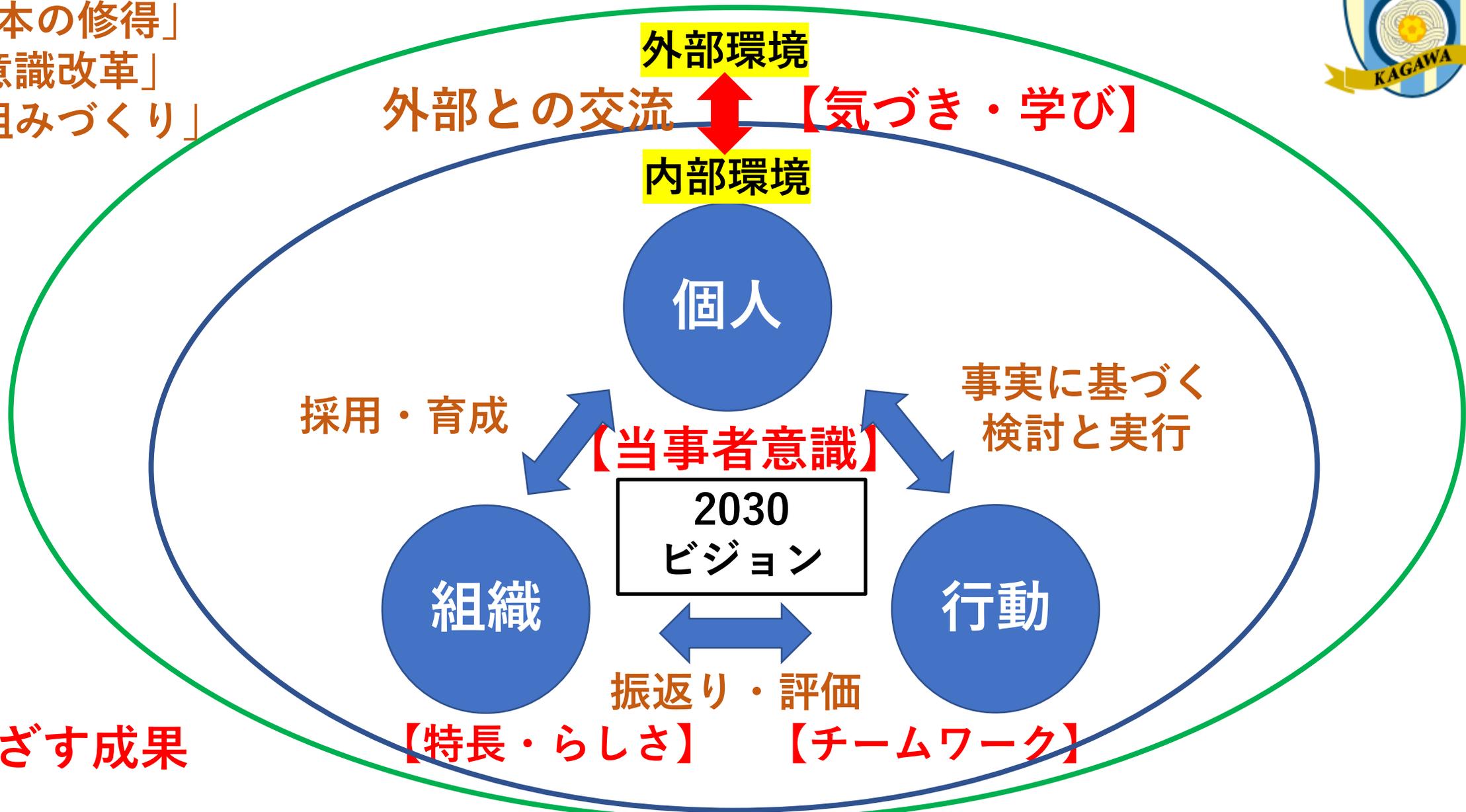
(2) 2030ビジョン づくり

狙い：長期的な視点にたった経営

② 2022 経営方針



「基本の修得」
「意識改革」
「仕組みづくり」



めざす成果

【特長・らしさ】

【チームワーク】



■事業目標（前年比）

- ・収入予算 4.6億円（+0.7億円）
- ・総入場者数 3万4千人（+1万3千人）
1試合平均2,000人（同1,475人）
- ・ホームタウン活動 250回（+50回）
- ・スクール生 385人（+100人）

■競技目標

1試合1試合サッカーフィロソフィー(後述)を
表現することにこだわる



■重点施策

◆ スポンサー営業

SDGsなど新しい視点での連携による既存拡充、新規獲得

◆ ホームゲーム集客

営業・ホームタウン活動、アカデミーと連携したイベントからの入場
JリーグIDを活用したプロモーション

◆ スクール事業

スクールへの選手の活用、トップチームと連携したイベントの開催

◆ 物販事業

顧客をカテゴリー分けした商品づくり

◆ その他事業

トークン、クラウドファンディング

◆ トップチーム／アカデミー

サッカーフィロソフィーに根差した強化、育成

③ 2030ビジョン



【環境分析】

プラス面

- ◆2.2万人収容のホームスタジアム
- ◆アカデミー事業での成果（U18）
- ◆クラブ理念のベース、可視化されている
- ◆練習環境の改善、整備計画の決定（宝山湖、23年秋クラブハウス建設）



着眼点

マイナス面

- ◆チームスタッフ・監督が定着しない
- ◆チーム成績の低迷
- ◆サッカースタイルが定まらない
- ◆収益基盤が弱い（責任企業なし）
- ◆収益力が長期低減傾向にある（入場者数の減少）



内部環境

- ◆企業活動に利益だけでなく社会性を求める声が若年層を中心に拡大（SDGsなど）

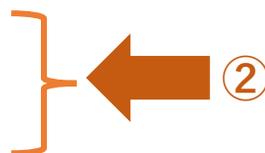


- ◆運動系クラブ活動への参加生徒・指導者の減少



外部環境

- ◆ネット市場は若年層だけでなく高齢層にも拡大（ガラケーサービス終了に伴いスマホへ）
- ◆デジタル技術の一般化、低価格化（プログラミング言語を必要としないアプリ普及）
- ◆モノの消費から体験の消費への移行（サブスクモデル拡大 金銭価値<時間価値）
- ◆自治体の特色ある地域活性化策（高松市スーパーシティ構想等）
- ◆三豊市との地域活性化に関する協定締結
- ◆ホームタウンにある他プロスポーツクラブとの交流、連携



- ◆インバウンド需要の蒸発（当分回復は見込めない）
- ◆リアルでのイベント需要の低下（特に新規層）
- ◆エンターテインメントの多様化



【サッカー・フィロソフィー】 着眼点①

ひたむきに、クレバーに、一つになって戦う

【背景・考え方】

- 1) 香川県の県民性である真面目さと堅実さをベースに
- 2) ひたむきに： 誰一人さぼらず、最後まで走り切る
- 3) クレバーに： 目的と手段を混同せず、状況に応じて、頭をつかってプレーする
- 4) 一つになって戦う： チームの勝利を最優先に、一つになって戦う

**狙い： クラブ・アイデンティティを確立し、
クラブ価値を最大化する一丁目一番地**

【サッカー・フィロソフィーとは】

クラブの理念、地域の文化を反映して、所属チームが目指すサッカーを言語化したもの
トップチームだけでなくアンダーカテゴリーのチームが目指すサッカーの基軸となる
アカデミーからトップの一貫指導で、アカデミー選手のトップチームへの昇格、活躍のベースとなる



【カマタマーレSDGs宣言】 着眼点②

私たちは地域社会と一緒にSDGsに取り組みます



- 3. すべての人に健康と福祉を
- 4. 質の高い教育をみんなに



- 13. 気候変動に具体的な対策を
- 14. 海の豊かさを守ろう



狙い：クラブの発信力を使い、地域（企業、自治体）のSDGs活動を
広く発信
⇒ 多くの人々の関心を高め、地球の未来に貢献する



【宝山湖ボールパーク宣言】 着眼点③

- サッカーフィロソフィーを形にするため
アカデミーからトップまで一貫指導する強化、
育成の拠点とします
- 子どもたちがスポーツを通じて困難を乗り越える
素晴らしさを知り、夢を追い続ける場所とします
- SDGs推進企業と連携し、地域の人たちの心豊かな
生活を応援し、地球の未来に貢献する場所と
します
- 県内外の企業と連携し、健康、学び、自然とのふれあいなどさまざまなアク
ティビティを体験できる「きっかけづくり」の場所とします



狙い： チーム強化の拠点 & 心豊かな生活の拠点
⇒ まちづくりに貢献

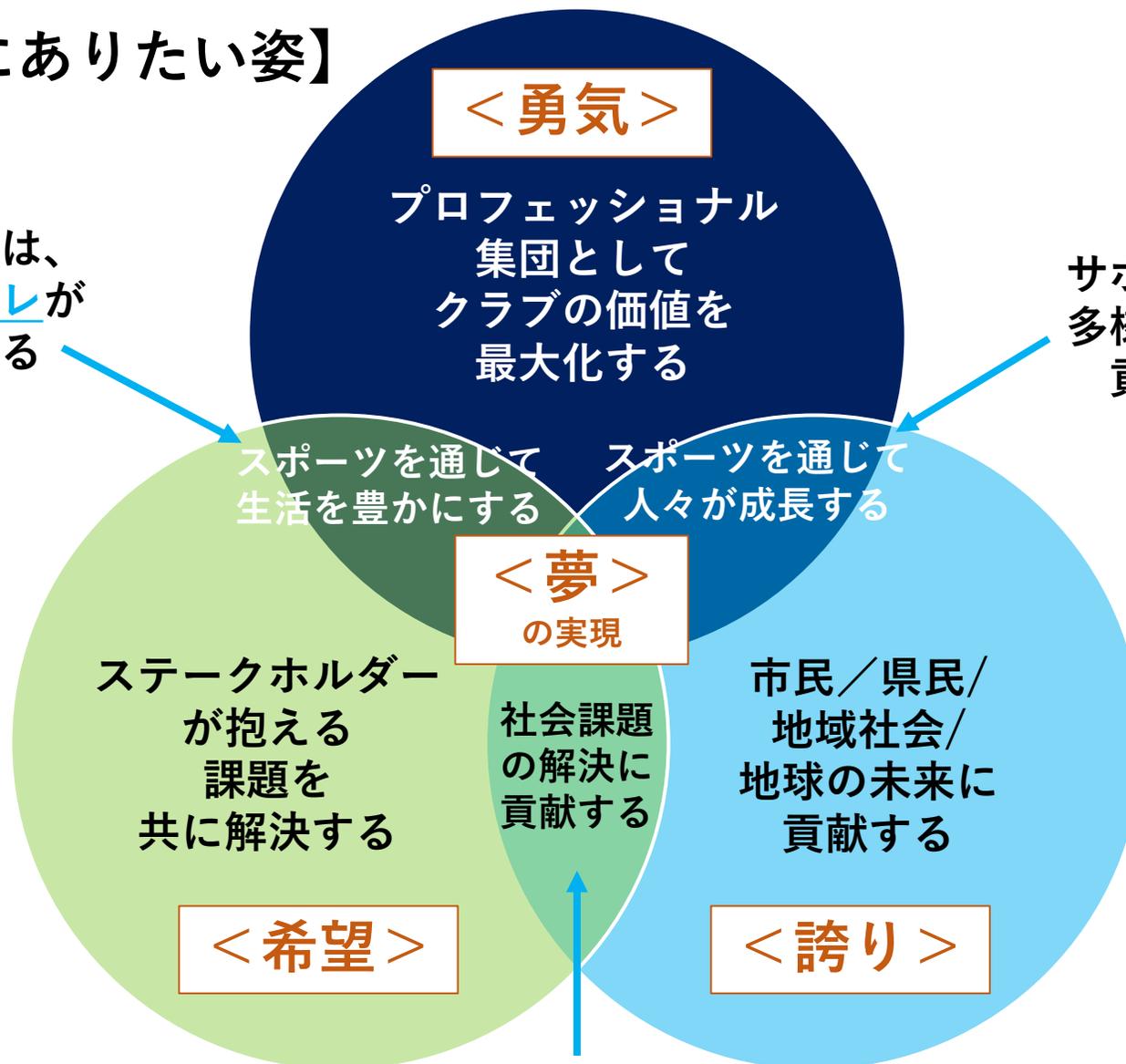
③ 2030ビジョン



【概念図：2030年にありたい姿】

<キーワード>

すべてのステークホルダーは、心豊かな生活にカマタマーレが貢献していると感じている



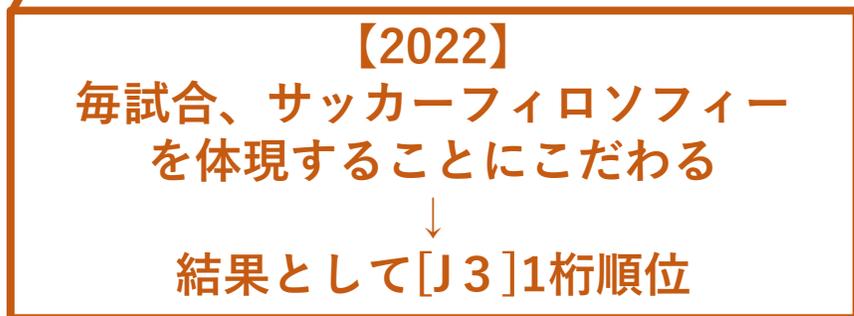
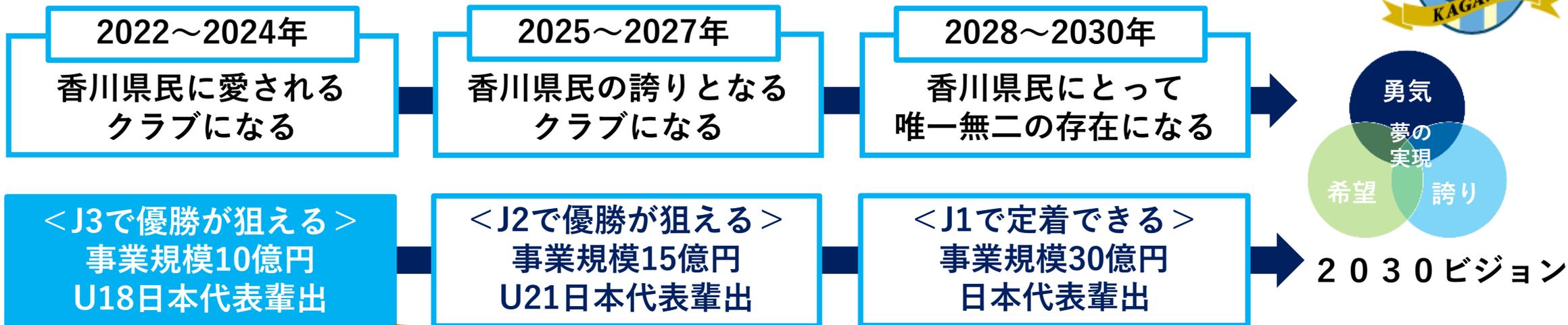
すべての香川県民とサポーターは、カマタマーレが多様な人々の健全な人材育成に貢献していると感じている

すべてのステークホルダーは、カマタマーレが共に課題解決を目指すパートナーだと感じている

③ 2030ビジョン

【ロードマップ】

※記載の事業規模はアフターコロナの想定目安



↑ 2022年2月
旧鶴尾中施設に
トレーニングルーム

↑ 2023年秋
三豊市宝山湖に
クラブハウス・天然芝グラウンド

補足資料 企業版ふるさと納税 ご案内



カマタマーレ讃岐は、宝山湖公園に建設するクラブハウスの整備資金を「企業版ふるさと納税」で募集しています。

【企業版ふるさと納税】とは
内閣府が創設した地方創生施策のひとつです。企業は、企業版ふるさと納税を活用した寄附により、税額控除を受けながら、地方公共団体が行う地方創生の取組みを支援できます。

【企業のメリット】

- ◆ SDGsの実践になり、社会貢献意欲の高い企業としてイメージアップやPR効果が見込めるだけでなく、社員の社会貢献意識の醸成も期待できます。
- ◆ 企業の強みや資源を活かした新たな事業機会の創出や地域との協働・連携体制が期待できます。
- ◆ 寄附による損金算入に加え、法人住民税、法人税、法人事業税の一部を控除できます（最大で寄附額の9割を控除）



お問合せ先：カマタマーレ讃岐
営業部
houzanko@kamatamare.jp